

## 郷土資料館だより

Vol.33 No.1

2010.8.1

## 企画展 収蔵品展 前期 ～三島宿と箱根西坂～ 開催中

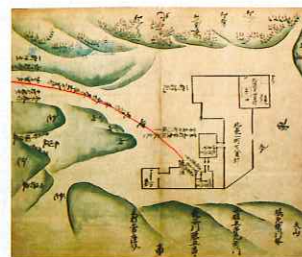
- 開催期間 平成22年7月3日(土)～平成22年8月29日(日)
- 会場 郷土資料館1階展示室
- 主催 三島市教育委員会・三島市郷土資料館

三島市郷土資料館は、昭和46年に開館してから今年の10月で39年を迎えます。この間、市民をはじめ多くの方々から寄贈された資料をもとに展示を企画し、ご観覧いただきました。

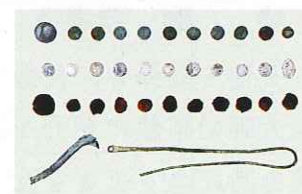
しかしながら寄贈された資料の中から、展示されるものはほんの一部です。今回は来年の開館40周年を前に、前期と後期の2回に分けて公開の機会の少ないすぐれた歴史資料や民俗資料、美術資料の数々を紹介します。このうち前期は「三島宿と箱根西坂」と題し、箱根・接待茶屋の貴重な資料を始め山中城からの出土遺物や、三島宿に関する史料を展示公開しますので、この機会にぜひ市民の皆様にご覧頂きたいと思っております。

## 山中城

箱根西麓に築かれた山中城は、天正18年(1590)豊臣秀吉の小田原後北条攻めの時、防衛拠点となった山城です。山中城での合戦は、天正18年3月29日早朝より始まり、わずか半日で落城してしまいました。豊臣方は4万の大軍、対する山中城の守備は4千と伝えられています。激しい戦闘の様子は各種史料にも描かれていますが、多くの鉄砲玉が出土している状況からも推測されます。山中城跡は、昭和9年国指定史跡となり、現在は復元整備され、史跡公園として市民に親しまれています。



伊豆山中城絵図



出土した火縄銃の玉や部品

## 接待茶屋

現在、<sup>せきようだい</sup>施行平と呼ばれる所に東海道を行き交う人や馬のための無料の休憩所「接待茶屋」がありました。文政7年(1824)、江戸の豪商<sup>かせやよへえ</sup>加勢屋與兵衛により開設された接待茶屋は幕末に一度閉じられますが、明治12年(1879)に江戸末期の農民指導者、<sup>おおはらゆうがく</sup>大原幽学の門人たち(八石性理教会)により再興されます。教会衰退後の明治38年頃(1905)からは当時の茶屋の責任者、鈴木利喜三郎とその家族による個人経営となりました。茶屋の経営と鈴木家の生活は非常に苦しいものでしたが、鈴木家の人々の強い使命感や近隣の人たちの支援、箱根竹の出荷などの資金獲得の工夫により昭和45年(1970)まで茶屋は続けられました。現在、施行平に往時を偲ばせるものはほとんど残っていませんが、森林ボランティアを中心とした「箱根接待茶屋の森づくり協議会」の活動が始まっています。今後、またこの場所でボランティアによる憩いの場の提供が再開されることになりそうです。



右：茶屋看板 左：茶釜



## 没後 玄峰老大師50年 宋淵老大師27年 墨跡展

開催報告

●開催期間 平成22年3月9日(火)～平成22年6月6日(日)

今回の企画展は、山本玄峰老師の没後50年とその嗣法<sup>しほう</sup>中川宋淵老師没後27年を記念して開催しました。両老師とも市内沢地の龍澤寺のご住職を務められていたこともあり、現在でもお二人を慕う方々が大変多くいらっしゃいます。このため会期中は市内外を問わず多くの来館者で賑わいました。また今回は玄峰老師の50回忌と重なったこともあり、玄峰老師の出身地である和歌山から足を運ばれた方もいらっしゃいました。

会期中は前期と後期に分けて、それぞれ老師の作品の数々を紹介しました。特に前期展示で紹介した玄峰老師の絶筆である「玄峰塔」と宋淵老師がその揮毫由来を記した「玄峰塔由来記」は圧巻で、作品から溢れ出る力を見る人たちを惹きつけていました。また宋淵老師の俳禅一如とも言うべき作品には老師独特の知性と宇宙観が感じられました。今回の企画展アンケートでは、今後も両老師の展示についてリクエストが多数ありましたので、機会を見ながら開催していければと考えております。



## 企画展関連講演会 玄峰・宋淵両老大師の風光

開催報告

●開催期間 平成22年4月4日(日) 午後1時30分～ ●於 生涯学習センター3階講義室  
●講師 龍澤寺 後藤榮山老師 ●参加者 132人

沢地・龍澤寺の後藤榮山老師をお招きし、玄峰・宋淵両老大師の事績の紹介を踏まえ、禅、仏教といった難しい話題を時にユーモアを交えた大変わかりやすい、生き活きとした語りでお話いただきました。参加者からも「玄峰老師の人柄、宋淵老師の学識の深さに感心した」、「龍澤寺の歴史がよくわかりました」など大変好評でした。



## 次回企画展「収藏品展 楽寿園」

●開催期間 平成22年9月18日(土)～12月5日(日)

昭和27年7月に楽寿園が開園してから今年で58年が経過しました。この間収集された資料の中から楽寿園を別邸として造営した小松宮彰仁親王や李王世子にまつわる資料、楽寿園の所蔵するゆかりの品々、市指定文化財の梅御殿杉戸絵など、郷土資料館が所蔵する資料を中心に紹介します。楽寿園秋の菊まつり同様是非本展もご覧いただきたいと思っております。



梅御殿杉戸絵「郭子儀図」

## 平成21年度事業報告

### ●企画展示

テ マ	実施日	展示内容	入館者数
国立遺伝学研究所60周年記念 「遺伝学ってなんだろう？」	7月5日(日)～9月27日(日)	国立遺伝学研究所創設60周年にあたり、60年間の歴史を振り返り、また最先端の遺伝学研究について紹介	10,095人
国民文化祭関連企画展 「百人一首と古今伝授 ～古今伝授のまち三島から その源流をさぐる～」	10月24日(土)～11月23日(月)	第24回国民文化祭・しずおか2009に合わせ、三島市で行われた小倉百人一首かるた競技全国大会に関連する百人一首と中世の時代に三島で行われた古今伝授について紹介	7,170人
富士・沼津・三島三市博物館共同企画展 「レール&ロード —富士・沼津・三島の交通ものがたり—」	平成22年 12月6日(日)～2月21日(日)	各市における交通の歴史を概観しながら、それぞれの街づくりに与えた影響や、観光等の側面を紹介	8,305人
「没後 玄峰老大師50年 宋淵老大師27年 墨蹟展」	平成22年 3月9日(火)～6月6日(日)	龍澤寺の傑僧山本玄峰老師の没後50年とその嗣法中川宋淵老師没後27年を記念し、遺墨やゆかりの品などを通して、両老師の人となりとその魅力を紹介	10,313人

### ●講座・教室・講演会

講座名	日程	テ マ	講師	対象	参加者数
郷土教室	8月8日(土)	機織りを体験しよう	ギャラリーあさひ 杉山 洋子 氏	児童・生徒	10人
	10月24日(土)	国民文化祭関連事業 和楽器にさわってみよう	邦楽の祭典 出演者	児童・生徒	15人
ふるさと講座	5月24日(日)	茂吉をめぐる歌人たち	元日本大学文学部教授 藤岡 武雄 氏	一般市民	53人
	11月14日(土)	宗祇ゆかりの地をめぐる	郷土資料館学芸員	一般市民	15人
	1月30日(土)	チンチン電車の跡をたずねて	郷土資料館運営協議会委員長 迫田 信行 氏	一般市民	21人
	2月20日(土)	江戸時代の旅Ⅲ	郷土史家 関 守敏 氏	一般市民	17人
企画展関連講演会	11月3日(火)	宗祇の見た関東 —文明三年古今伝授の背景—	慶応義塾大学文学部准教授 小川 剛生 氏	一般市民	39人

### 21年度新規購入資料

い せ こよみ

### 伊勢暦 (寛保3(1743)～明治35(1902)全10巻 160年分)

伊勢暦は江戸時代に最も隆盛した地方暦です。本資料は寛保3(1743)年から160年分の伊勢暦を卷子装に仕立てたものであり、三嶋暦との比較研究においては貴重な資料です。なお購入に当たっては、みしまプラザホテル(三島市本町、室伏勝宏社長)120周年事業部からの寄付金を活用させていただきました。



## 郷土資料館改築事業

現在、郷土資料館では、平成24年秋の開館を目指して新たな郷土資料館の建設事業に取り組んでいます。そのあらましについて、お知らせします。

現在の郷土資料館は、三島市制30周年の記念の年である昭和46年に開館しました。以来38年にわたって、小学校の社会科見学をはじめ、延べ280万人を超える多くの方々にご利用いただきました。年を経るごとに収蔵品が増える一方、生涯学習活動の高まりから、郷土資料館の果たすべき役割も多岐にわたるようになりました。郷土資料館を利用される目的は様々で、展示物の観覧や講座等の催事への参加にとどまらず、ご自身の趣味や研究のために資料についてお問い合わせをいただいたり、自主研究サークルの活動として当館所蔵の未調査資料を研究していただいたり、という機会も増えています。様々な事物について「知る」機会を重ねてきた皆さんのニーズが、知る喜びをさらに深めていく活動＝「探求する」に発展してきた現われであると感じています。

そのような学習活動の進展、学習意欲の高まりに伴い、当館も三島のまちの博物館施設として、これまでの成果を踏まえながら、新たな役割を担っていきたいと考えています。こうした志向は、施設のあり方にも反映してきます。施設の耐震性能の問題を解決するだけでなく、規模を拡大してより充実した博物館機能を備える施設となることで、多彩で創造的な活動も可能となります。人々が憩うまちに開かれた施設となるため、移転改築し、「三島のまちの総合博物館」として生まれ変わる事となりました。

現在は、郷土資料館運営協議会委員の皆様による会議や職員による庁内検討部会等を重ね、『新・三島市郷土資料館建設基本構想』の策定作業に取り組んでいます。その後は、この基本構想に基づいて、建物の基本設計及び実施設計、また展示の基本設計及び実施設計へと事業が進んでいくことになります。ここでは、基本構想の草案の中から、新館の施設概要と基本理念の内容をご紹介します。

### 新館の施設概要(基本構想)

延床面積：1,500㎡（現館の約1.7倍）

構造：鉄筋コンクリート造または鉄骨鉄筋  
コンクリート造3階建て

計画地：三島市立公園楽寿園内駅前口付近  
現・小浜の森

入館料：無料 ※楽寿園とは別に、直接入館できる  
進入路を新たに設けます。

建設事業スケジュール：

平成22年度 基本構想策定  
基本設計・実施設計

平成23年度 建築工事

平成24年度 建築・展示工事・オープン



## 新館の基本理念

- 1) 三島の歴史・文化・自然等を網羅する「郷土の総合博物館」として、市民を惹きつける魅力ある博物館を目指す。
- 2) 歴史・民俗等の実物資料を通して、その背景にある恵まれた自然環境、連綿と続いてきた人々の営み、みずみずしい感性を体感できる展示を展開し、現在につながる三島のまちの特色・魅力を発信する。
- 3) 郷土の歴史・民俗等の資料の調査・研究を行い、収集し、その適切な保存と活用を図る。
- 4) 市内外の史跡や文化・教育施設等と連携して、市民の知的欲求を刺激する機会を提供し、人々をまちへ誘う活動を展開する。
- 5) 多くの人々に広く活用されるよう配慮された施設機能を備え、何度でも気軽に訪れ楽しく余暇を過ごすことができる憩いの場、集い学びあう場となるよう、施設を運営する。
- 6) 利用者や収蔵品に配慮しながら、自然にもやさしい環境負荷の少ない効率的な施設の維持管理を行う。

今後も引き続き、郷土資料館改築事業の進捗状況等について随時お知らせしていきますので、皆さん、新しい「三島のまちの博物館」ができるのを楽しみにしててください。また、新しい施設に期待すること、「やってみたい」「こうして欲しい」などのご意見・ご要望など、ぜひ郷土資料館までお寄せください。お待ちしております。

## 平成22年度 郷土資料館運営協議会視察

- 日 時 6月15日(火)
- 視察先 川崎市市民ミュージアム、横浜市歴史博物館
- 参加者数 7名

郷土資料館の円滑な運営を図るため設置されている運営協議会では、委員の研鑽と先進館の事例研究を兼ねて毎年研修視察を行っています。以下は、迫田委員長からの研修視察報告です。

今年度の研修視察は、運営協議会として、移転改築が決まった郷土資料館に対するなんらかの提言のための糧を得るという目的を持って、一同張り切って参加しました。

訪問先の「川崎市市民ミュージアム」と「横浜市歴史博物館」の視察を通じて施設におけるバックヤードのあり方、展示・調査研究機能、資料収集・保存機能のみならず教育普及・情報交流機能などのさらなる充実の必要性を痛感させられました。

三島市の場合、財政力豊かな政令指定都市の博物館をそのままモデルにする訳にはいきません。しかしながら、これまで不十分であった「博物館機能の強化・充実」という点で、学ぶべき点が多かったと思います。「資料館」から「博物館」への発展の示唆を得ることができたという意味からも、今回の視察のメリットは大であったといえるでしょう。(委員長/迫田信行)



川崎市市民ミュージアム 中央広場



横浜市歴史博物館 写場

## 寄贈資料紹介

平成22年4月～7月にかけて次の方々からご寄贈の協力をいただきました。  
ありがとうございました。

- 鈴木 征子氏 函南町
- 接待茶屋 茶釜 1点
  - 接待茶屋 文書一式 桐箱入 1点
  - 接待茶屋 湯飲茶碗 相馬焼 4点
- 田口 一夫氏 鹿児島市
- 電報 北伊豆震災後の安否確認 3点
  - 電報送達紙 同上 4点

その他

- 雑誌『明星（復刻版）』 100点  
第1号～100号 臨川書店版



接待茶屋文書一式



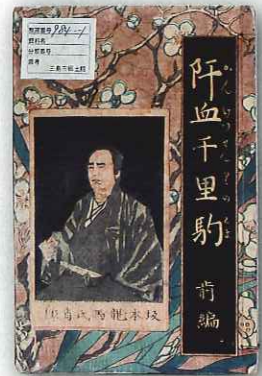
電報・電報送達紙

## 資料紹介

かんけつせんりのこま  
『汗血千里駒 前編』

現在、NHK大河ドラマでは坂本龍馬の生涯を描いた『龍馬伝』が放映されています。この『汗血千里駒』は坂本龍馬を主人公にした初の伝記小説で、明治16年から『土陽新聞（現・高知新聞）』に連載されたものを刊行しました。維新後しばらく忘れられていた龍馬が再び世間に知られる契機となった作品として有名です。そしてドラマの第1回冒頭シーンで岩崎弥太郎に龍馬の真の姿取材する記者が、本書の作者である坂崎紫瀾（1853-1913）です。

本書は新聞連載後直ぐに刊行された貴重な初版本で、表紙には龍馬の肖像画が描かれています。郷土資料館1階常設展示コーナーにて紹介していますので是非ご覧ください。



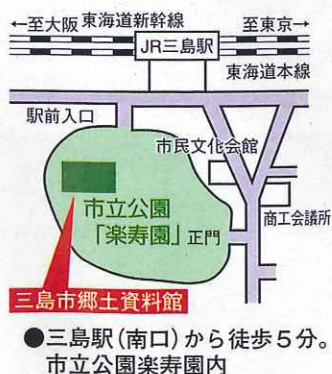
### 平成22年度新スタッフ紹介

- 館長 鈴木 敏中 館長の鈴木です。誰にでも楽しめる市民共生の資料館を目指します。
- 職員 石井 章代 まっさらな気持ちでがんばります。みなさん、ぜひ遊びにきてください。
- 職員 平林 研治 新人学芸員ですが、早く皆様のお役に立てるようになりたいです…。

【編集後記】 新年度より、館長をはじめ3人のプロフェッショナル・スタッフが新たに館の運営に携わるようになり、新館建設に向けて、本格的に始動しはじめました。ご期待ください。（Y.T.）

### 利用案内

- 休館日  
毎週月曜日  
(祝日の際は翌日)  
12月27日～1月2日
- 開館時間  
午前9時～午後5時  
(4/1～10/31)  
午前9時～午後4時30分  
(11/1～3/31)
- 入館無料  
(ただし、楽寿園入園の際に有料)



郷土資料館だより vol.33 No.1 (第97号)

発行日 平成22年(2010)8月1日  
(年3回発行)

編集 三島市郷土資料館  
〒411-0036  
静岡県三島市一番町19-3 楽寿園内  
TEL 055-971-8228  
FAX 055-981-3730

E-mail : kyoudo@city.mishima.shizuoka.jp  
URL : http://www.city.mishima.shizuoka.jp/kyoudo/  
発行 三島市教育委員会